└■しずだい産学連携メールマガジンVol.42

2011年6月21日発行　【毎月第3火曜日】

⇒静大産学連携広報より、お知らせやイベント情報をお届けします。
http://www.cjr.shizuoka.ac.jp/からもご覧いただけます。

■□――――――――――――――――――――――――――――――――

□　ＩＪＲＣ創立２０周年特別寄稿　-3-
－静岡大学イノベーション共同研究センター（IJRC）は、
平成23年4月に創立20周年を迎えました－

――――――――――――――――――――――――――――――――

平成２３年３月１１日に発生しました三陸沖の地震、まだ脳裏に鮮明に残っています。

多事多難な20年をくぐり抜け、今に至ったIJRC。日本のイノベーションの牽引車として多くの実績を残すべく、皆様のご協力を頂きながら、大学と産との連携を強化してきました。

静岡大学も第2期中期計画をスタートし、ナノバイオ科学、グリーン科学、極限画像、及びアジア学を重点研究分野として位置づけ、特に高齢化社会、環境・社会問題を克服できる新たなブレークスルー技術、High risk high return型のイノベーションを進めています。

イノベーション共同研究センター静岡オフィスでは今後、食、バイオ、またナノバイオ科学、グリーン科学を中心とした産学連携を模索しており、引き続き皆様のご助言やご支援を賜りながら前へ前へと進んでいく所存です。　（記：２代目副センター長[静岡]　朴　龍洙）

◆◇◆　目次　◆◇◆

１．「バイオテクノロジー国際会議」に出展します
２．「静岡大学第２２回共同研究希望テーマ説明会」を開催します
３．「サイエンスカフェin浜松」のご案内
４．「週末パテントセミナー2011in静岡」のご案内

※問合先のアドレスは、スパムメール防止のため表記を一部変更しています。メール送信の際は〇欄に@を入れてください。

――――――――――――――――――――――――――――――――

１．「バイオテクノロジー国際会議」に出展します
～併催：第10回国際バイオＥＸＰＯ～

ポスター展示日：2011年6月29日（水）～7月1日（金）
会場：東京ビッグサイト　西展示棟
＜口頭発表日時＞
〇6月29日12：10～　ACA-2
「生体ナノイメージングのための電子線励起アシスト光学顕微鏡」
若手グローバル研究リーダー育成拠点　居波渉特任助教
〇6月29日14：50～　ACA-5
「小型・長寿命・低コストな心拍数ワイヤレスモニタ」
工学部　山川俊貴助教
〇6月30日13：30～　ACA-5
「食品成分のメタボリックシンドローム抑制に関する研究」
農学部　茶山和敏准教授
〇7月1日14：50～ ACA-1
「微生物を用いた迅速なポリ乳酸分解法」
農学部　徳山真治准教授

詳細/申込 http://www.bio-expo.jp/jp/
問合先　静岡大学知的財産本部
E-mail bioexpo-s○cjr.shizuoka.ac.jp

２．「静岡大学第２２回共同研究希望テーマ説明会」を開催します

日時　2011年7月26日（火）13：00～17：00
会場　静岡大学浜松キャンパス佐鳴会館会議室
主催　静岡大学イノベーション共同研究センター
発表テーマ
１．「フェムト秒パルステクノロジー」
工学部 物質工学科 准教授　杉田 篤史
２．「プラスチック・ゴム・農産物等の硬さを
非接触非破壊で測定する計測器」
工学部 電気電子工学科 教授　犬塚 博
３．「直流高電圧回路内で発生するアーク放電」
工学部 電気電子工学科　准教授　関川 純哉
４．「弾性波を利用したデジタルマイクロ流体システム
－液滴の直接操作による反応検出・物質合成・創薬への応用－」
創造科学技術大学院 教授　近藤 淳
５．「２次元アレイ構造を用いたセラミックスセンサの開発」
工学部 物質工学科 教授　脇谷 尚樹
６．「亜臨界水を用いる廃棄物の燃料化及び排水処理技術」
創造科学技術大学院 教授　佐古 猛
工学部 物質工学科 助教　岡島 いづみ
７．「色素増感太陽電池の実用化研究」
浜松キャンパス共同利用機器センター　准教授　村上 健司
８．「ワイヤレス電力伝送」
工学部 電気電子工学科 教授　桑原 義彦
９．「がん治療用光増感剤の開発」
工学部 共通講座　准教授　平川 和貴
10．「２１世紀のクリーン燃料ジメチルエーテル（ＤＭＥ）」
工学部 共通講座　講師　武石 薫
11．「耐圧反応容器を必要としないマイクロ・ナノバブルを利用した
次世代型気相－液相有機合成手法の開発」
工学部 物質工学科 准教授　間瀬 暢之
参加費　無料
申込/詳細　http://www.cjr.shizuoka.ac.jp/
問合先　静岡大学イノベーション共同研究センター
TEL　053-478-1413　E-mail tane8p○cjr.shizuoka.ac.jp

３．「サイエンスカフェin浜松」のご案内

大学の先生のお話を2時限と大学生サポートの放課後討論会を行います。最前線のお話をコーヒー、お菓子と一緒に楽しみましょう。
お気軽にお越しください。

日時　2011年7月27日（水）18:00～20:30
テーマ　「身近な省エネから省エネネットワークへ」
講師　工学部電気電子工学科　松尾廣伸
情報学部情報科学科　峰野博史

2011年8月31日（水）18:00～20:30
「身近な環境・真の環境を考える」

工学部物質工学科　　戸田三津夫
工学部物質工学科　　松田　智

2011年9月21日（水）18:00～20:30
「測って知ろう、人間の体」
工学部電気電子工学科　庭山雅嗣
工学部電気電子工学科　山川俊貴

会場　静岡大学高柳記念未来技術創造館（駐車場あり）
参加費　無料（申込不要）
詳細　http://www.nvrc.rie.shizuoka.ac.jp/takayanagi/
問合先　静岡大学高柳記念未来技術創造館　受付
TEL　053-478-1321
E-mail　sci-cafe○nvrc.rie.shizuoka.ac.jp

４．「週末パテントセミナー2011in静岡」のご案内

■浜松会場
日時　第1回　2011年9月9日（金）13:30～16:30
「その出願ちょっと待った！特許出願前後の注意事項」
～有効な権利取得のための前準備と事後手続き～
第2回　2011年9月16日（金）13:30～16:30
「商品の“装いとネーミング”あれこれ」
～意匠法・商標法・不競法・種苗法にまつわる
知的財産を考える～
第3回　2011年9月30日（金）13:30～16:30
「著作権＆不競法ピンポイントセミナー」
～気を付けよう！著作物利用、
確かめよう！秘密保持契約と秘密情報管理～
第4回　2011年10月14日（金）13:30～16:30
「知財と弁理士の仕事」
～知財のプロフェッショナル「弁理士」の
虚像と実像に迫る！～
会場　静岡大学浜松キャンパス

■静岡会場
日時　第1回　2011年10月7日（金）13:30～16:30
第2回　2011年10月21日（金）13:30～16:30
第3回　2011年11月4日（金）13:30～16:30
第4回　2011年11月25日（金）13:30～16:30
会場　静岡県立大学

対象　一般、中小企業経営者、知財関係者、学生など
定員　60名
参加費　無料
講師　日本弁理士会東海支部所属の静岡県弁理士
主催　日本弁理士会東海支部、東海ｉＮＥＴ
協力　国立大学法人静岡大学、静岡県公立大学法人静岡県立大学
詳細/申込　http://www.jpaa-tokai.jp/topics/detail_200_0__1.html
問合先　日本弁理士会東海支部
TEL　052-211-3110　　E-mail　info-tokai○jpaa.or.jp

《　静大ラボ紹介 -27- 》
工学部電気電子工学科　羽多野裕之助教

今回は、工学部電気電子工学科の若手のホープ、羽多野助教の紹介です。
次世代のＩＴＳ（高度交通システム）においては、自車位置や周囲状況を正確に把握することが不可欠です。ＩＴＳでは位置情報を正確に把握していないと致命的な事故につながる可能性もあり、その精度と信頼性は高いレベルを要求されます。羽多野助教は豊富な無線技術の知識を活かして、これらの問題の解決にあたっています。
例えば、レーダーネットワークを用いた障害物位置の推定や、周囲と情報交換しながらＧＰＳ測定誤差を補正する技術など。また、ＩＴＳ以外にも、無線技術を用いて、様々なものの位置を推定する技術の研究をしています。
無線技術や位置測定技術などでお困りの方は、ぜひ羽多野先生までご相談ください。
【研究分野】電子情報通信
【研究キーワード】ＩＴＳ、超音波レーダ、レーダネットワーク、
障害物検出システム、ＧＰＳ
（記：知財コーディネーター　神谷直慈）

《　みんなのコラム -41- 》

『農学を考える』
農学とは何でしょう。農業、林業、水産業、畜産業などに関わる応用科学を担う学問分野という説明が第一義かもしれません。日本学術会議では現在、第二部「生命科学」に農学は位置づけられています。2006年に枠組の見直しが行われ、かつての７部制のもとでは、第４部（理学）、第５部（工学）、第６部（農学）、第７部（医学・歯学・薬学）と括られていましたが、この時の見直しで生命科学の範疇に入ることになりました。生命科学というと、ライフ・サイエンスという言葉が先ず浮かびます。iPS細胞が話題となっているように、生命の根源に関わる先端的な分野を想像することが多いと思いますが、一方で、ライフには「生活」の意味もあることを忘れてなりません。
三月の大災害を契機として、命をつなぐこと、すなわち生きることや生活することの意味が問われています。農学は、生きることの根幹に関わる科学と技術を分担する分野であると再認識した次第です。
（記：農学部長　鈴木滋彦）

《　編集後記　》
先日産学連携の主催イベントで、参加者の方から発表の仕方についてコメントを頂き、改めて「魅せ方」の重要性を感じました。
主催者側の想定以外のこともイマジネーションが誘起される様なシチュエーションを創り「どのように魅せるか」を工夫することで、聴く人の期待の高まりに差が生まれ「（その後の）する/しない」が決まると考えると、最初の鍵は、確かに「魅せ方」。回を重ねて行っている事も異なる視点で見直すことで、丁寧に、そして価値を高めていきたいと思いました。
昨年の総合科学技術会議の答申の中で“研究情報の分かりやすい形での発信”が掲げられており、そのための支援体制整備や評価への反映が求められているため、その実践をこれまでも模索していましたが正解はなく、思考錯誤を繰り返していたところに頂いたお話でした。

＊－＊－＊－＊－＊－＊－＊－＊－＊－＊－＊－＊－＊－＊－＊－＊－＊

Vol.42_11.06.21

◆メールマガジンに関するお問合せ・配信先変更・担当者変更・
配信中止のご連絡は、sangakukoho5〇cjr.shizuoka.ac.jp　まで
お願いします。　　（↑送付の際は〇欄に@を入れてください。）

◆本メールマガジンの商業用の転載はお断りいたします。

発｜行｜者｜

国立大学法人静岡大学イノベーション共同研究センター（IJRC）
編集：原典子
編集責任者：木村雅和
〒432-8561 静岡県浜松市中区城北3-5-1
TEL 053-478-1414
URL http://www.cjr.shizuoka.ac.jp/

＊－＊－＊－＊－＊－＊－＊－＊－＊－＊－＊－＊－＊－＊－＊－＊－＊
Copyright(c)2008-2011 Innovation and Joint Research Center,
Shizuoka University.All rights reserved